

令和5年度文部科学省委託事業
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」

留学生に関する 実態把握アンケート調査報告書

海外教育機関在籍学生対象

令和5年12月調査

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

◇調査方法

調査対象：ベトナム現地の高等学校・大学・短期大学・日本語教育機関 在籍学生

調査方法：アンケート調査（インターネット調査・アンケート用紙の配布）

調査期間：2023年11月30日～2023年12月17日

回答数：550

◇INDEX

P01	1. 調査概要／INDEX
P02	2. 回答者属性
P04	3. 本調査
P04	1-1 日本語学習のきっかけ
P05	1-2 日本語学習の最終目的
P06	1-3 日本語能力テストの受験状況
P07	1-4 日本語学習の方法
P08	1-5 留学先の候補
P09	1-6 留学先選択の条件
P10	1-7 留学先での専攻希望分野
P11	2-1 日本のイメージ
P12	2-2 関心がある日本文化
P13	2-3 日本で行ってみたい場所
P14	2-4 日本についての情報収集手段
P15	3-1 進路についての情報収集手段
P16	3-2 将来の希望
P17	3-3 専門学校の認知度
P18	4-1 日本の学校に期待する情報やサポート

2 回答者属性

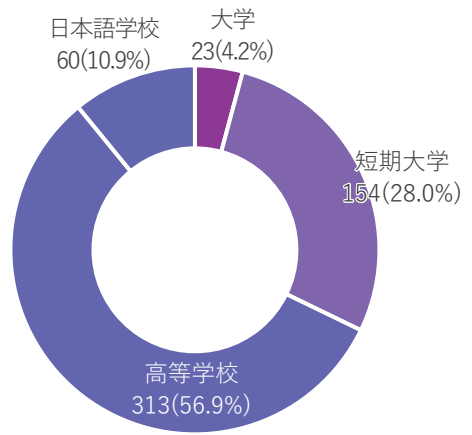
◇性別

回答数：550件



◇現在在籍している学校の種別

回答数：550件

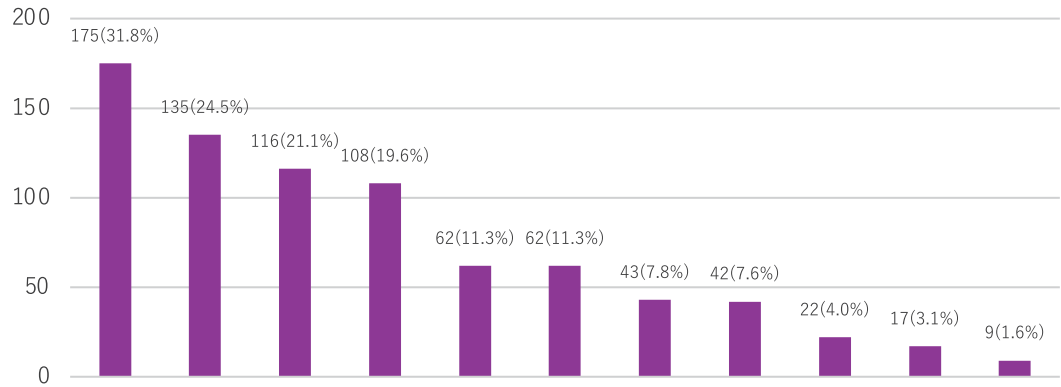


		在籍学校別				
		大学	短期大学	高等学校	日本語学校	総計
性別	男性	12	81	162	29	284
		2.2%	14.7%	29.5%	5.3%	51.6%
	女性	11	73	151	31	266
		2.0%	13.3%	27.5%	5.6%	48.4%
総計		23	154	313	60	550
		4.2%	28.0%	56.9%	10.9%	100.0%

2 回答者属性

◇今の学校を卒業した直後の希望進路(複数回答可/当てはまるもの全て)

回答数：550件



		日本の大学・短期大学に進学したい	ベトナムの大学・短期大学に進学したい	日本の大学院に進学したい	ベトナムで働きたい	ベトナム・日本以外の国で進学したい	日本で働きたい	ベトナムの大学院に進学したい	日本の日本語学校に進学したい	日本の専門学校に進学したい	ベトナム・日本以外の国で働きたい	その他	
総計		(n=550)	31.8%	24.5%	21.1%	19.6%	11.3%	11.3%	7.8%	7.6%	4.0%	3.1%	1.6%
在籍学校別	大学	(n=23)	69.6%	0.0%	26.1%	0.0%	4.3%	8.7%	13.0%	8.7%	21.7%	0.0%	0.0%
	短期大学	(n=154)	24.7%	9.1%	17.5%	21.4%	12.3%	6.5%	7.1%	9.1%	3.2%	3.9%	0.6%
	高等学校	(n=313)	21.7%	37.4%	13.1%	21.7%	12.5%	9.6%	6.7%	5.8%	1.9%	2.6%	2.6%
	日本語学校	(n=60)	88.3%	6.7%	70.0%	11.7%	5.0%	33.3%	13.3%	13.3%	10.0%	5.0%	0.0%
性別	男性	(n=284)	28.2%	26.1%	16.9%	22.2%	8.5%	9.2%	7.7%	6.7%	3.5%	3.9%	1.8%
	女性	(n=266)	35.7%	22.9%	25.6%	16.9%	14.3%	13.5%	7.9%	8.6%	4.5%	2.3%	1.5%

回答者属性 今の学校を卒業した直後の希望進路

- ・男性最多は「日本の大学・短期大学に進学したい」で28.2%(前回調査20.0%)。男性はベトナムでの進学・労働意欲が女性よりも高い傾向がある。
- ・女性最多は「日本の大学・短期大学に進学したい」で35.7%(前回調査17.7%)。女性はベトナム以外での進学・労働意欲が男性よりも高い傾向がある。
- ・在籍学校別にみると「日本語学校」「大学」在籍者は日本への進学・就職志望度が高く、7割以上が日本の大学または短期大学への進学を希望している。「高等学校」在籍者では「ベトナムの大学・短期大学に進学したい」がトップで37.4%。
- ・前回調査比で「日本の専門学校に進学したい」が4.0%(前回16.9%)と大きく下がっているが、回答者の大学生割合が減少したためと推測。

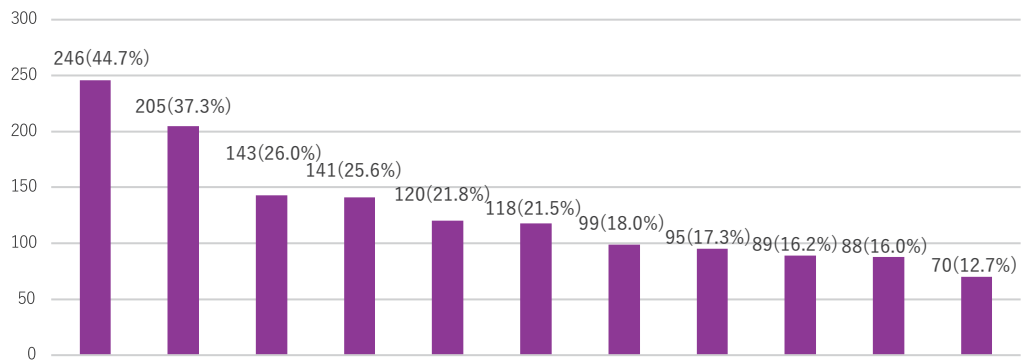
1-1 日本語学習のきっかけ

日本語学習のきっかけをたずねたところ、「日本に留学するため」が44.7%で最多。2位以下は「将来の仕事・就職に役立てるため(37.3%)」、「今の仕事や学校で日本語でのコミュニケーションが必要(26.0%)」、「日本のポップカルチャー(アニメ・マンガ・ファッション・J-POP)に興味があるため(25.6%)」に大差をつけており、将来の就労を見据えた学習のきっかけが多いことがわかる。

在籍学校別にみると「日本に留学するため」と回答した割合が高いのは大学(82.6%)、日本語学校(88.3%)となっており、高等学校在籍者では留学よりも「将来の仕事・就職に役立てるため(40.9%)」「日本のポップカルチャー(アニメ・マンガ・ファッション・J-POP)に興味があるため(33.2%)」が高い結果となった。

◇日本語学習のきっかけ・動機を教えてください(複数回答可/3つまで)

回答数：550件



			日本に留学するため	将来の仕事・就職に役立てるため	今の仕事や学校で日本語でのコミュニケーションが必要	日本のポップカルチャー(アニメ・マンガ・ファッション・J-POP)に興味があるため	日本に観光旅行するため	家族・親族、友人からすすめられたため	日本語を使つての受験や資格取得	日本の歴史・文化・芸術などに興味があるため	日本の科学・技術への興味があるため	日本の政治・経済・社会に興味があるため	その他
総計		(n=550)	44.7%	37.3%	26.0%	25.6%	21.8%	21.5%	18.0%	17.3%	16.2%	16.0%	12.7%
在籍学校別	大学	(n=23)	82.6%	43.5%	21.7%	17.4%	13.0%	21.7%	47.8%	26.1%	4.3%	17.4%	0.0%
	短期大学	(n=154)	48.7%	31.8%	19.5%	16.9%	14.9%	17.5%	20.8%	21.4%	20.1%	18.2%	18.2%
	高等学校	(n=313)	31.6%	40.9%	27.2%	33.2%	22.4%	21.7%	16.3%	14.7%	15.7%	14.7%	13.4%
	日本語学校	(n=60)	88.3%	30.0%	38.3%	11.7%	40.0%	30.0%	8.3%	16.7%	13.3%	16.7%	0.0%
性別	男性	(n=284)	43.7%	33.5%	26.1%	27.8%	18.0%	21.5%	15.1%	15.8%	17.3%	15.5%	14.8%
	女性	(n=266)	45.9%	41.4%	25.9%	23.3%	25.9%	21.4%	21.1%	18.8%	15.0%	16.5%	10.5%

1-2 日本語学習の最終目的

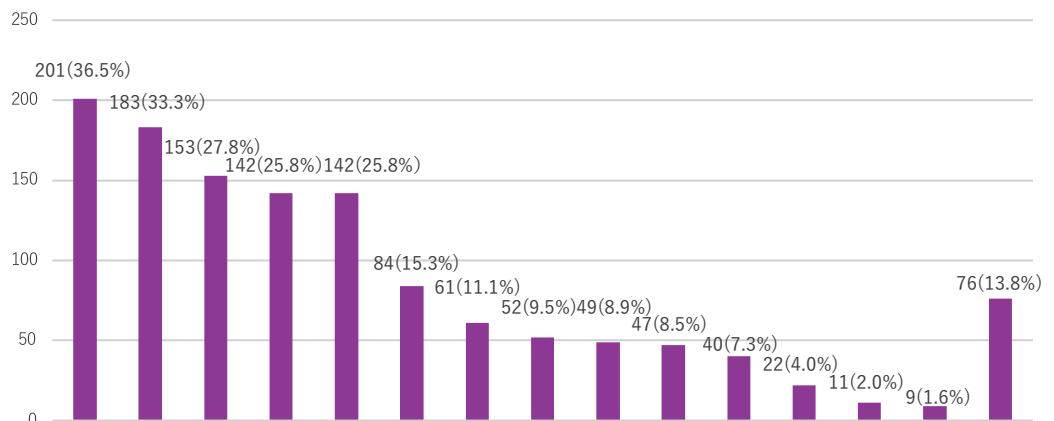
日本語学習の最終目的は「日本の大学・短期大学に留学するため」が36.5%と最多、「現在の学校を卒業後、自国での就職に役立てるため(33.3%)」、「日本の文化を楽しむため(27.8%)」、「日本の大学院に進学するため(25.8%)」、「国際理解・異文化交流のため(25.8%)」と続いた。

在籍学校別にみると、日本語学校在籍者では「日本の大学・短期大学に留学するため(86.7%)」「日本の大学院に留学するため(76.7%)」が突出して高い回答割合となった。高等学校在籍者は「現在の学校を卒業後、自国での就職に役立てるため(43.5%)」「日本の文化を楽しむため(37.1%)」「国際理解・異文化交流のため(35.1%)」など、日本への留学・就職を目的とせず自国での就職や教養付けを最終目的としている回答が多く見られる。

性別では、男性では「現在の学校を卒業後、自国での就職に役立てるため(34.5%)」が最多、女性では「日本の大学・短期大学に留学するため(41.0%)」など、多少の性差が見られる。

◇日本語学習の最終目的を教えてください(複数回答可/3つまで)

回答数：550件



		留学するため	現在の学校を卒業後、自国での就職に役立てるため	日本の文化を楽しむため	日本の大学院に留学するため	国際理解・異文化交流のため	現在の学校を卒業後、日本での就職に役立てるため	日本の大学・短期大学に留学し、日本で就職するため	日本の大学院に留学し、日本で就職するため	自国の大学・短期大学に進学するため	日本の大学院に留学し、自国で就職するため	日本の大学・短期大学に留学し、自国で就職するため	日本の専門学校に留学するため	自国で就職するため	日本の専門学校に留学し、日本で就職するため	日本の専門学校に留学し、自国で就職するため	その他
総計		(n=550)	36.5%	33.3%	27.8%	25.8%	25.8%	15.3%	11.1%	9.5%	8.9%	8.5%	7.3%	4.0%	2.0%	1.6%	13.8%
在籍学校別	大学	(n=23)	69.6%	17.4%	4.3%	39.1%	8.7%	13.0%	21.7%	39.1%	4.3%	21.7%	8.7%	8.7%	13.0%	0.0%	0.0%
	短期大学	(n=154)	38.3%	18.8%	17.5%	26.6%	15.6%	16.2%	9.1%	11.0%	3.2%	11.0%	3.9%	3.9%	1.9%	3.2%	18.2%
	高等学校	(n=313)	23.6%	43.5%	37.1%	14.7%	35.1%	15.3%	10.9%	7.0%	13.4%	5.4%	8.9%	1.6%	1.3%	1.0%	15.3%
	日本語学校	(n=60)	86.7%	23.3%	15.0%	76.7%	10.0%	13.3%	13.3%	6.7%	1.7%	13.3%	6.7%	15.0%	1.7%	1.7%	0.0%
性別	男性	(n=284)	32.4%	34.5%	27.8%	21.8%	24.6%	15.5%	10.9%	9.2%	8.1%	7.0%	9.5%	3.9%	1.8%	2.5%	16.9%
	女性	(n=266)	41.0%	32.0%	27.8%	30.1%	27.1%	15.0%	11.3%	9.8%	9.8%	10.2%	4.9%	4.1%	2.3%	0.8%	10.5%

1-3 日本語能力テストの受験状況

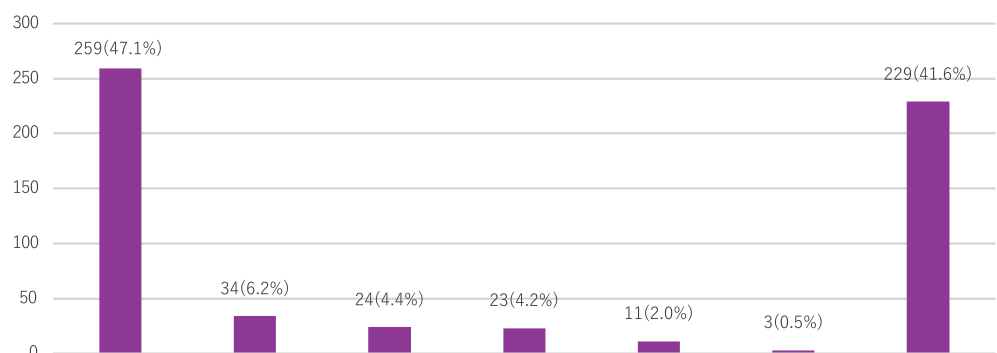
日本語能力を測るために受験した、または受験予定のテストについては、「日本語能力試験 (JLPT)」が47.1%と最多で、次点で「試験は受けていない (41.6%)」となった。「試験を受けていない」が70.0%と最多だった前回調査から大きな変化があった。特に日本語学校 (91.7%) と大学 (78.3%) の受験 (予定) 率が高い。大学入試の準備のために受験が必要であることが多い「日本留学試験 (EJU)」を選択した人は4.2%とその他テストよりも受験者が少なく、ベトナム現地では必ずしも留学目的のために日本語能力を測っているわけではないと推察できる。

在籍学校種別でみると、大学生は17.4%が「日本留学試験 (EJU)」を受験しており、比較的对象者が多いといえる。

性別では、各試験共通して受験 (予定) 率が高いのは女性で、男性では約半数 (50.4%) が「試験は受けていない」と回答しており、女性のほうが比較的日本留学への意欲が高いと言える。

◇日本語能力を測るため、受験したことがある、または受験を予定しているテストを選んでください。(複数回答可/当てはまるもの全て)

回答数：550件



		日本語能力試験 (JLPT)	日本語 NAT-TEST	ビジネス日本語能力テスト (BIT)	日本留学試験 (EJU)	実用日本語検定 (J-TEST)	その他	試験は受けていない	
総計	(n=550)	47.1%	6.2%	4.4%	4.2%	2.0%	0.5%	41.6%	
在籍学校別	大学	(n=23)	78.3%	4.3%	8.7%	17.4%	4.3%	0.0%	4.3%
	短期大学	(n=154)	44.8%	6.5%	11.7%	6.5%	1.9%	0.6%	36.4%
	高等学校	(n=313)	37.4%	6.7%	0.6%	2.2%	1.9%	0.6%	54.3%
	日本語学校	(n=60)	91.7%	3.3%	3.3%	3.3%	1.7%	0.0%	3.3%
性別	男性	(n=284)	40.1%	5.6%	4.2%	3.9%	1.1%	0.7%	50.4%
	女性	(n=266)	54.5%	6.8%	4.5%	4.5%	3.0%	0.4%	32.3%

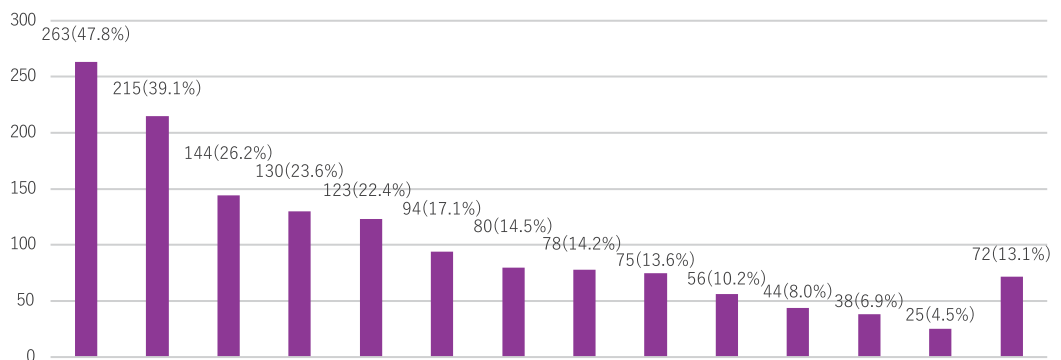
1-4 日本語学習の方法

どのように日本語を勉強しているかについては「学校の授業のみ」が47.8%と半数近くを占める結果となり、続いて「日本語教材(テキスト)(39.1%)」「日本語教材(オンライン)(26.2%)」「映画・ドラマ(23.6%)」「アニメ(22.4%)」等が多い結果となった。

在籍学校別にみると短期大学を除く学校種別で学校の授業のみが最多となっている。ただし学校の授業とその他回答を選択するケースも多く、設問内容の見直しを検討する必要がある。短期大学在籍者は、「学校の授業のみ」が15.6%と低く、自主的な学習を取り入れている場合が多いと推測される。大学在籍者ではスマートフォンの日本語学習アプリ、日本語学校在籍者ではTV・ラジオなどが相対的に高く、環境面やメディアリテラシーの違いが見られる。また学校種別を問わず「日本語教材(テキスト・オンライン)」の回答率は高めにっており、さまざまな教材が活用されていると言える。

◇どのように日本語を勉強していますか(複数回答可/3つまで)

回答数：550件



		学校の授業のみ	日本語教材(テキスト)	日本語教材(オンライン)	映画・ドラマ	アニメ	スマートフォン上の日本語学習アプリ	TV・ラジオ	マンガ(本・雑誌)	ゲーム	ベトナム人で日本語が得意な友人・知人から教えてもらう	YouTubeなどの動画で自習	日本人の友人・知人から教えてもらう	音楽(JPOP)	その他	
総計		(n=550)	47.8%	39.1%	26.2%	23.6%	22.4%	17.1%	14.5%	14.2%	13.6%	10.2%	8.0%	6.9%	4.5%	13.1%
在籍学校別	大学	(n=23)	65.2%	43.5%	39.1%	17.4%	4.3%	34.8%	13.0%	17.4%	4.3%	13.0%	17.4%	13.0%	4.3%	0.0%
	短期大学	(n=154)	15.6%	39.6%	32.5%	27.9%	18.2%	19.5%	18.8%	17.5%	12.3%	10.4%	9.1%	7.1%	3.9%	17.5%
	高等学校	(n=313)	62.0%	36.4%	19.8%	21.1%	26.2%	15.0%	9.3%	10.5%	15.3%	10.5%	7.0%	4.5%	5.8%	14.4%
	日本語学校	(n=60)	50.0%	50.0%	38.3%	28.3%	20.0%	15.0%	31.7%	23.3%	11.7%	6.7%	6.7%	16.7%	0.0%	0.0%
性別	男性	(n=284)	53.2%	34.5%	23.6%	22.2%	20.1%	15.1%	13.7%	14.1%	14.4%	10.2%	9.5%	6.0%	4.2%	13.4%
	女性	(n=266)	42.1%	44.0%	28.9%	25.2%	24.8%	19.2%	15.4%	14.3%	12.8%	10.2%	6.4%	7.9%	4.9%	12.8%

1-5 留学先の候補

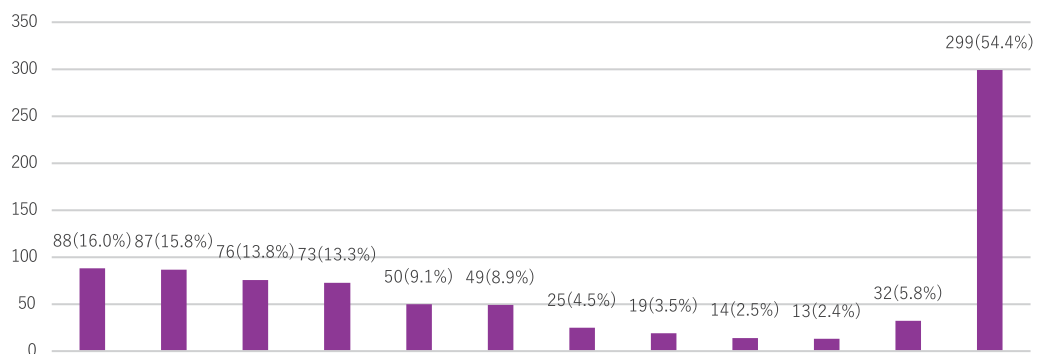
日本のほかに留学先の候補にしている国があるかたずねた。「留学しない」が最も多く、54.4%。その他候補は横並びで「ヨーロッパ(16.0%)」「中国(15.8%)」「韓国(13.8%)」「アメリカ(13.3%)」と続いた。「留学しない」の数値が前回調査の27.3%から倍増しており、回答者学校種別の変化はあるものの、ベトナム国内での進学意向が高まっている可能性があると言える。ただし留学しないを選択した中に、留学自体をしない層と日本以外に留学を検討していない層が入っている可能性があり、設問の見直しを検討する必要がある。

在籍学校別でみると、大学生では半数以上が「留学は考えていない(69.6%)」と回答。一方高校生、日本語学校生では留学検討層が比較的多く、高等学校では「ヨーロッパ(19.2%)」、日本語学校では「韓国(30.0%)」などが日本以外での留学先候補として多く検討されることが分かった。

性別で見ると、ほぼすべての国・地域で女性のほうが留学先候補が多く、中国や韓国といったアジア志向が高いことがわかる。

◇日本のほかに、留学先の候補はありますか?(複数回答可/3つまで)

回答数：550件



		ヨーロッパ	中国	韓国	アメリカ	カナダ	オーストラリア	ニュージーランド	ロシア	インド	フィリピン	その他	留学しない
総計 (n=550)		16.0%	15.8%	13.8%	13.3%	9.1%	8.9%	4.5%	3.5%	2.5%	2.4%	5.8%	54.4%
在籍学校別	大学 (n=23)	4.3%	8.7%	0.0%	13.0%	13.0%	13.0%	8.7%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	69.6%
	短期大学 (n=154)	7.8%	13.0%	8.4%	4.5%	3.2%	1.3%	2.6%	2.6%	1.9%	0.0%	1.3%	71.4%
	高等学校 (n=313)	19.2%	16.3%	14.4%	16.9%	9.6%	11.2%	4.8%	3.5%	2.2%	2.6%	9.6%	46.3%
	日本語学校 (n=60)	25.0%	23.3%	30.0%	16.7%	20.0%	15.0%	6.7%	5.0%	6.7%	8.3%	0.0%	46.7%
性別	男性 (n=284)	14.4%	12.3%	9.9%	13.4%	8.8%	8.8%	3.9%	3.5%	2.1%	1.8%	6.0%	58.8%
	女性 (n=266)	17.7%	19.5%	18.0%	13.2%	9.4%	9.0%	5.3%	3.4%	3.0%	3.0%	5.6%	49.6%

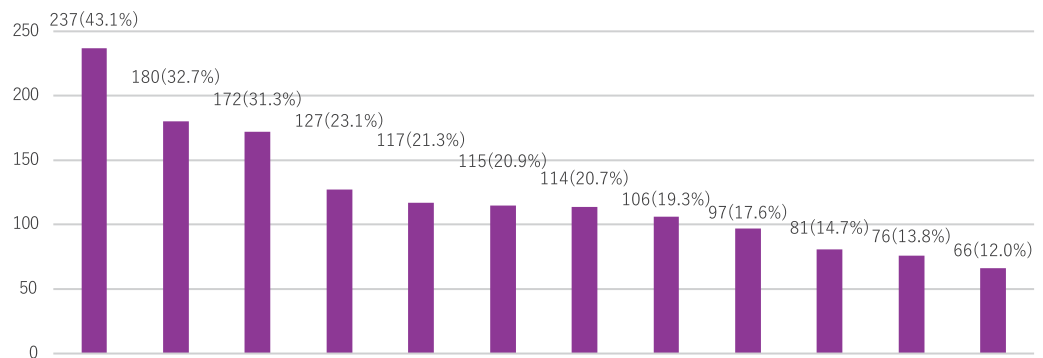
1-6 留学先選択の条件

留学するとしたら何を優先するかという問いについては、43.1%が「物価・費用」と回答、前回調査の28.8%から大きく伸びた。2位以下は「地域文化(32.7%)」「学びの専門性(31.3%)」「賃金(将来働くため)(23.1%)」が続いた。前回調査では賃金が最多(36.2%)だったが、ベトナム学生の意向が変化している。

在籍学校別でみると大学在籍者は「気候(65.2%)」「治安(43.5%)」「地域文化(30.4%)」など住環境に関する条件の優先度が高めとなっており、その他学校種別では、「賃金」がいずれも高い回答率となっている。

◇留学するとしたら、何を優先しますか?(複数回答可/3つまで)

回答数：550件



			物価・費用	地域文化	学びの専門性	賃金(将来働くため)	治安	交通の利便性	気候	将来の仕事に役立つスキル取得	地域からの支援	時差	都会か田舎か	その他
総計		(n=550)	43.1%	32.7%	31.3%	23.1%	21.3%	20.9%	20.7%	19.3%	17.6%	14.7%	13.8%	12.0%
在籍学校別	大学	(n=23)	26.1%	30.4%	26.1%	26.1%	43.5%	8.7%	65.2%	17.4%	4.3%	17.4%	17.4%	4.3%
	短期大学	(n=154)	41.6%	30.5%	35.1%	16.9%	25.3%	24.0%	20.1%	12.3%	14.9%	18.2%	18.8%	13.6%
	高等学校	(n=313)	43.1%	33.9%	27.2%	28.1%	15.0%	18.5%	16.3%	24.9%	17.6%	14.1%	10.5%	14.1%
	日本語学校	(n=60)	53.3%	33.3%	45.0%	11.7%	35.0%	30.0%	28.3%	8.3%	30.0%	8.3%	16.7%	0.0%
性別	男性	(n=284)	43.3%	36.6%	27.8%	25.0%	21.5%	20.4%	19.4%	20.1%	16.2%	10.9%	13.4%	13.4%
	女性	(n=266)	42.9%	28.6%	35.0%	21.1%	21.1%	21.4%	22.2%	18.4%	19.2%	18.8%	14.3%	10.5%

1-7 留学先での専攻希望分野

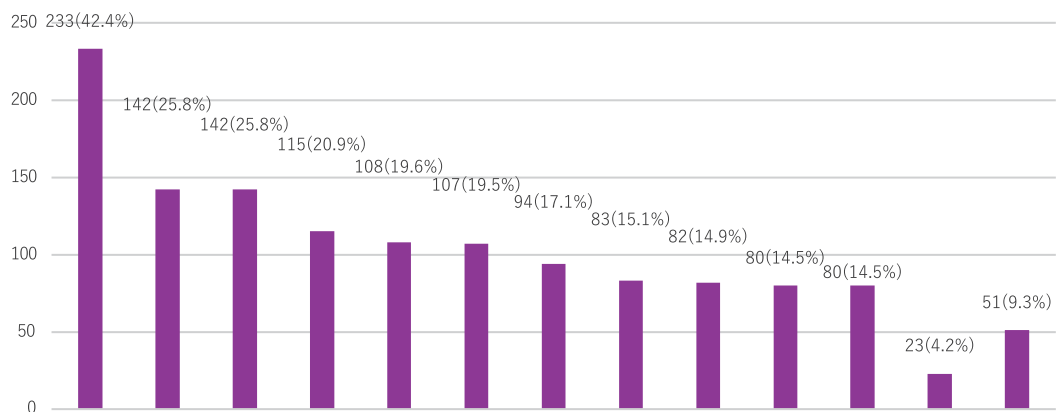
留学するとしたらどのような分野を専攻したいかについては「ビジネス・語学系」が42.4%で最も多く、「コンピュータ・マルチメディア系(25.8%)」「スポーツ・健康系(25.8%)」「工業系(20.9%)」と続く結果となった。

在籍学校別でみると、大学在籍者では「医療・医療事務系(60.9%)」「工業系(56.5%)」が人気となっており、短期大学・高等学校・日本語学校在籍者では「ビジネス・語学系」の回答が最多となっている。

男女ともに「ビジネス・語学系」が最多となっており、男性回答割合が10ポイント以上高いのは「コンピュータ・マルチメディア系(34.9%)」「工業系(29.2%)」、女性回答割合が10ポイント以上高いのは「デザイン・芸術系(24.8%)」「理容・美容系(21.1%)」となっている。

◇留学するとしたら、専攻したい分野は何ですか?(複数回答可/3つまで)

回答数：550件



		ビジネス・語学系	コンピュータ・マルチメディア系	スポーツ・健康系	工業系	医療・医療事務系	デザイン・芸術系	教育・福祉系	理容・美容系	マスコミ・音楽系	動物・バイオ・環境系	栄養・調理・製菓系	ファッション系	その他
総計	(n=550)	42.4%	25.8%	25.8%	20.9%	19.6%	19.5%	17.1%	15.1%	14.9%	14.5%	14.5%	4.2%	9.3%
在籍学校別	大学 (n=23)	43.5%	21.7%	13.0%	56.5%	60.9%	13.0%	13.0%	13.0%	13.0%	4.3%	8.7%	0.0%	0.0%
	短期大学 (n=154)	26.6%	13.0%	21.4%	17.5%	17.5%	25.3%	18.8%	13.6%	11.0%	13.6%	16.9%	3.9%	13.6%
	高等学校 (n=313)	46.0%	30.0%	25.2%	18.8%	16.3%	19.5%	16.0%	16.3%	16.3%	15.3%	14.7%	5.4%	9.6%
	日本語学校 (n=60)	63.3%	38.3%	45.0%	26.7%	26.7%	6.7%	20.0%	13.3%	18.3%	16.7%	10.0%	0.0%	0.0%
性別	男性 (n=284)	44.0%	34.9%	26.8%	29.2%	16.5%	14.4%	14.8%	9.5%	12.7%	12.0%	10.6%	3.2%	9.9%
	女性 (n=266)	40.6%	16.2%	24.8%	12.0%	22.9%	24.8%	19.5%	21.1%	17.3%	17.3%	18.8%	5.3%	8.6%

3 本調査

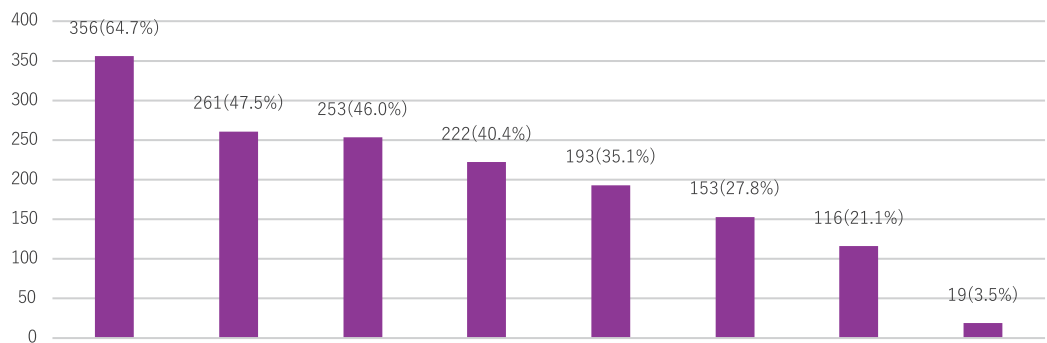
2-1 日本のイメージ

日本のイメージについては「豊かな伝統・文化を持つ国」が最多で64.7%、「都市の景観が美しい(47.5%)」「技術力のある国(46.0%)」「経済力のある国(40.4%)」「日本の人々が親切／礼儀正しい(35.1%)」が続く。特に「豊かな伝統・文化を持つ国」については、いずれの在籍学校別でも5割以上の回答率となっており、他項目についても前回調査よりも大きく向上している。

項目別では「アニメ・マンガ・ファッションなどの文化に興味深い」は男女で11ポイントの回答差となっており、女性の方が日本の文化面に関心を寄せているといえる。1-7の結果にもある通り、デザイン・芸術系や、理容・美容系への関心の高さなども影響していると推察される。

◇日本のイメージ (複数回答可/当てはまるもの全て)

回答数：550件



		豊かな伝統・文化を持つ国	都市の景観が美しい	技術力のある国	経済力のある国	日本の人々が親切／礼儀正しい	アニメ・マンガ・ファッションなどの文化に興味深い	交通機関が便利／発達している	その他	
総計	(n=550)	64.7%	47.5%	46.0%	40.4%	35.1%	27.8%	21.1%	3.5%	
在籍学校別	大学	(n=23)	73.9%	30.4%	52.2%	52.2%	34.8%	13.0%	43.5%	0.0%
	短期大学	(n=154)	53.2%	54.5%	45.5%	48.1%	35.1%	22.7%	24.0%	3.2%
	高等学校	(n=313)	68.1%	47.0%	43.1%	35.5%	32.9%	33.5%	17.9%	4.5%
	日本語学校	(n=60)	73.3%	38.3%	60.0%	41.7%	46.7%	16.7%	21.7%	0.0%
性別	男性	(n=284)	62.0%	50.4%	43.0%	40.1%	33.5%	22.5%	19.4%	2.1%
	女性	(n=266)	67.7%	44.4%	49.2%	40.6%	36.8%	33.5%	22.9%	4.9%

2-2 関心がある日本文化

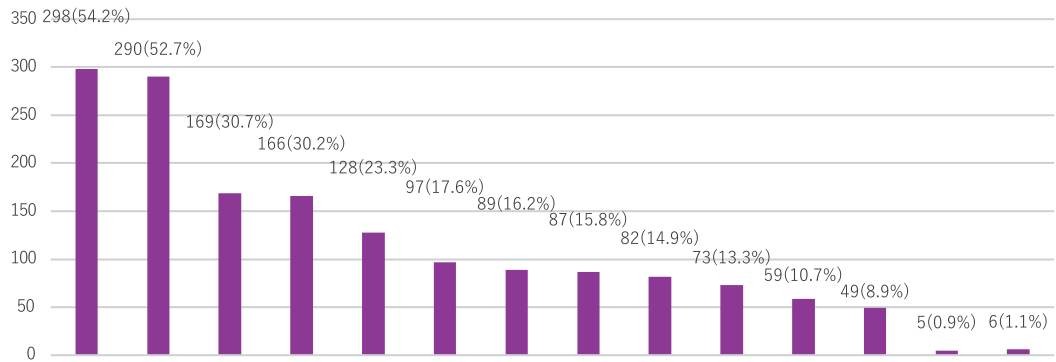
関心がある日本の文化については「日本食(54.2%)」「マンガ・アニメ(52.7%)」が半数以上を占め、「ゲーム(30.7%)」「日本映画・ドラマ(30.2%)」と続いた。

在籍学校別にみると、大学・高等学校・日本語学校では日本食、短期大学ではマンガ・アニメが最多となった。また大学・日本語学校では比較的「日本映画・ドラマ」「ファッション」の割合が高く、短期大学・高等学校では「マンガ・アニメ」「ゲーム」の割合が高い。

男女別でみると、男性の関心割合が高いのは「ゲーム」「相撲・武道」、女性の関心割合が高いのは「ファッション」「日本文学・俳句」などとなっている。

◇関心がある日本文化(複数回答可/当てはまるもの全て)

回答数：550件



		日本食	マンガ・アニメ	ゲーム	日本映画・ドラマ	ファッション	音楽(琴・三味線など)	日本文学・俳句	歌舞伎・能・狂言	建築	茶道・生け花・盆栽	相撲・武道	芸能人・アイドル・JPOP	その他	特になし	
総計		(n=550)	54.2%	52.7%	30.7%	30.2%	23.3%	17.6%	16.2%	15.8%	14.9%	13.3%	10.7%	8.9%	0.9%	1.1%
在籍学校別	大学	(n=23)	52.2%	39.1%	8.7%	39.1%	43.5%	8.7%	13.0%	21.7%	34.8%	17.4%	13.0%	8.7%	0.0%	0.0%
	短期大学	(n=154)	39.0%	54.5%	31.8%	29.9%	25.3%	18.2%	18.8%	22.1%	14.3%	13.0%	14.3%	9.1%	0.0%	2.6%
	高等学校	(n=313)	58.5%	56.9%	32.6%	28.4%	17.6%	19.2%	14.4%	11.2%	14.1%	12.5%	9.6%	9.6%	1.6%	0.6%
	日本語学校	(n=60)	71.7%	31.7%	26.7%	36.7%	40.0%	11.7%	20.0%	21.7%	13.3%	16.7%	6.7%	5.0%	0.0%	0.0%
性別	男性	(n=284)	51.4%	52.5%	36.3%	28.2%	16.9%	18.3%	12.7%	16.9%	16.2%	12.3%	14.8%	7.7%	1.4%	1.8%
	女性	(n=266)	57.1%	53.0%	24.8%	32.3%	30.1%	16.9%	19.9%	14.7%	13.5%	14.3%	6.4%	10.2%	0.4%	0.4%

2-3 日本で行ってみたい場所

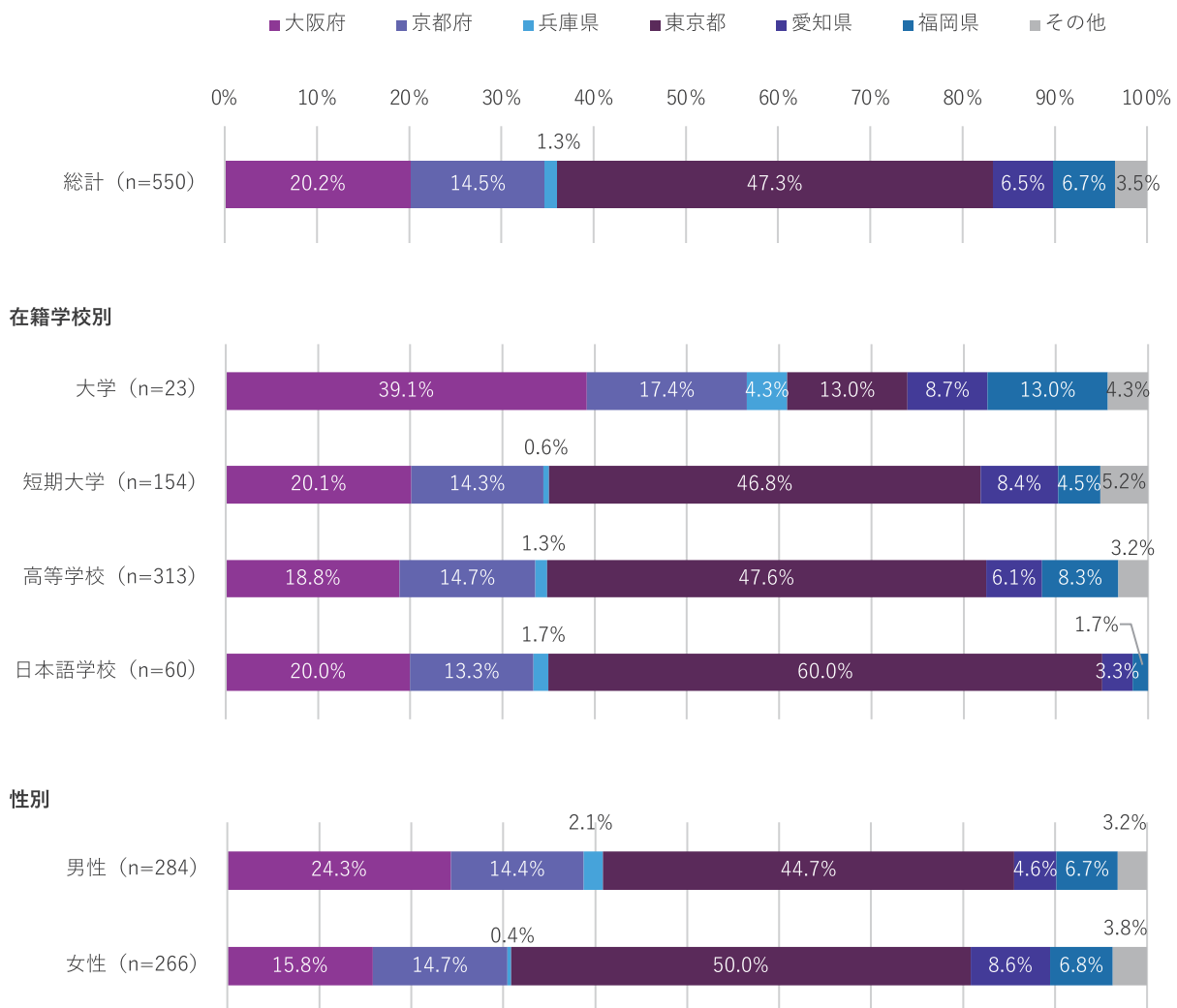
日本に来たら行ってみたい場所については「東京」が最多で47.3%、次点で「大阪(20.2%)」、「京都府(14.5%)」と続いた。

在籍学校別でみると、大学生の関西圏回答割合が高め(大阪府39.1%、京都府17.4%、兵庫県4.3%)となっており、その他の学校種別では東京志向が強い。特に日本語学校では60.0%が東京と回答している。

性別でみると、男性の関西圏回答割合が高め(大阪府24.3%、京都府14.4%、兵庫県2.1%)となっており、女性のほうが東京志向が強いといえる。

◇日本に来たら行ってみたい場所はどこですか?(単一選択)

回答数：550件

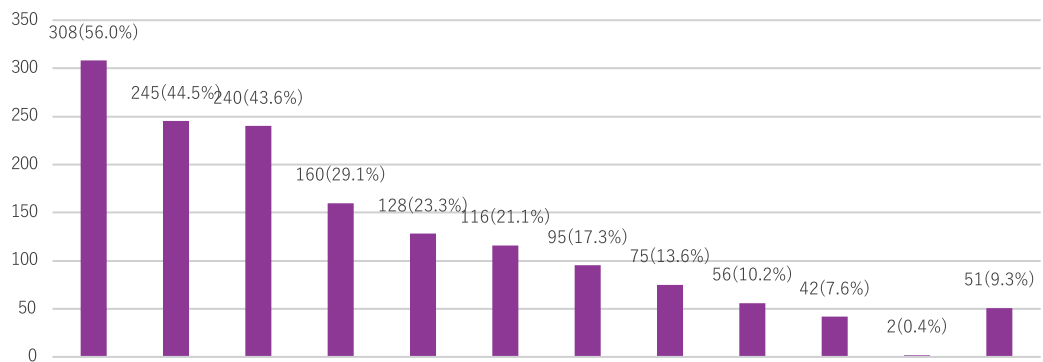


2-4 日本についての情報収集手段

日本についての情報収集手段は「WEBで検索」が最多で56.0%、「Facebook(44.5%)」「YouTube(43.6%)」「その他SNS(29.1%)」「Instagram(23.3%)」が続き、「学校の先生に聞く(21.1%)」「ベトナムの友人・知人に聞く(13.6%)」と比較し、WEBやソーシャルメディアを用いた情報収集が高くなっているといえる。特に前回調査では34.5%だった「WEBで検索」が20ポイント以上増加しており、ICT環境の充実など環境面の変化やメディアリテラシーの向上が推察される。

性別でみると、SNS系の回答は女性の方が回答率やや高く、先生や友人に聞く回答は男性がやや高い結果となった。

◇日本のことをどうやって調べていますか?(複数回答可/当てはまるもの全て) 回答数：550件



			WEBで検索	Facebook	YouTube	その他SNS	Instagram	学校の先生に聞く	X(旧Twitter)	ベトナムの友人・知人に聞く	日本の友人・知人に聞く	ガイドブック・雑誌を読む	その他	特に調べていない
総計		(n=550)	56.0%	44.5%	43.6%	29.1%	23.3%	21.1%	17.3%	13.6%	10.2%	7.6%	0.4%	9.3%
在籍学校別	大学	(n=23)	78.3%	39.1%	17.4%	30.4%	21.7%	17.4%	30.4%	26.1%	17.4%	17.4%	0.0%	0.0%
	短期大学	(n=154)	47.4%	51.3%	30.5%	31.8%	18.8%	15.6%	16.2%	10.4%	9.7%	12.3%	0.0%	17.5%
	高等学校	(n=313)	55.3%	43.5%	49.8%	26.8%	24.0%	25.6%	15.0%	15.0%	10.9%	4.8%	0.6%	7.3%
	日本語学校	(n=60)	73.3%	35.0%	55.0%	33.3%	31.7%	13.3%	26.7%	10.0%	5.0%	6.7%	0.0%	1.7%
性別	男性	(n=284)	53.5%	41.2%	43.0%	29.2%	18.0%	21.8%	15.8%	14.8%	12.0%	8.5%	0.4%	12.0%
	女性	(n=266)	58.6%	48.1%	44.4%	28.9%	28.9%	20.3%	18.8%	12.4%	8.3%	6.8%	0.4%	6.4%

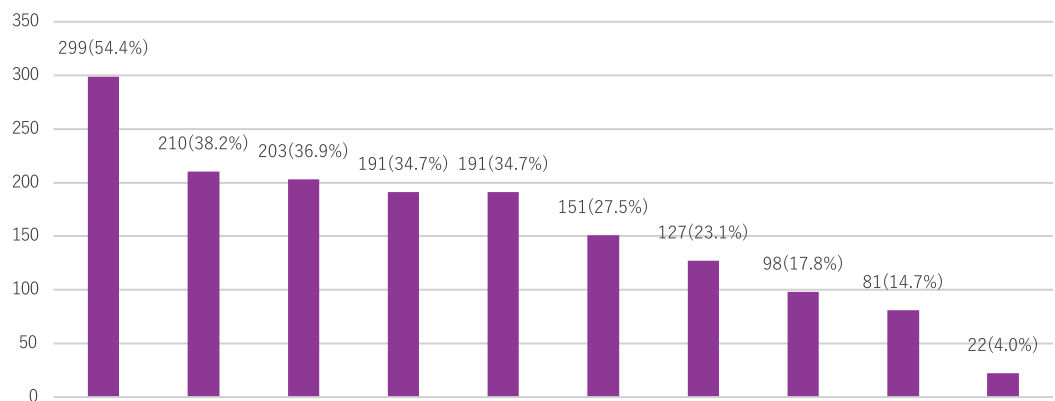
3-1 進路についての情報収集手段

進学先などの進路情報の収集手段については「WEBサイト」が54.4%と最も多く、次いで「学校の先生に聞く(38.2%)」「その他のSNS(36.9%)」、「Facebook(34.7%)」「友人・知人に聞く(34.7%)」と続いた。「YouTube」が31.9%で2位だった前回調査から大きく変化している。

在籍学校別でみると「WEBサイト」がどの学校種別でも高い回答割合となっており、特に大学・日本語学校では7割を超える。日本語学校では「学校の先生に聞く」や「友人・知人に聞く」率は低く、SNSを活用する割合が高めとなっており、逆に高等学校は「学校の先生に聞く」や「友人・知人に聞く」率が高めとなっている。

◇進学先などの進路の情報をどうやって調べていますか？
(複数回答可/当てはまるもの全て)

回答数：550件



		WEBサイト	学校の先生に聞く	その他のSNS	Facebook	友人・知人に聞く	YouTube	Instagram	ガイドブック・雑誌	X(旧Twitter)	その他	
総計	(n=550)	54.4%	38.2%	36.9%	34.7%	34.7%	27.5%	23.1%	17.8%	14.7%	4.0%	
在籍学校別	大学	(n=23)	73.9%	39.1%	56.5%	26.1%	39.1%	13.0%	17.4%	26.1%	8.7%	0.0%
	短期大学	(n=154)	49.4%	37.0%	51.3%	33.8%	31.8%	16.2%	22.1%	19.5%	12.3%	6.5%
	高等学校	(n=313)	51.1%	43.1%	28.1%	35.8%	39.6%	31.3%	20.8%	17.9%	13.7%	3.8%
	日本語学校	(n=60)	76.7%	15.0%	38.3%	35.0%	15.0%	41.7%	40.0%	10.0%	28.3%	0.0%
性別	男性	(n=284)	57.0%	39.1%	38.7%	34.2%	35.2%	23.9%	17.6%	19.4%	13.0%	4.9%
	女性	(n=266)	51.5%	37.2%	35.0%	35.3%	34.2%	31.2%	28.9%	16.2%	16.5%	3.0%

3-2 将来の希望

将来働きたい分野をたずねたところ、「情報処理/マルチメディア/自動車整備/土木/建築/電気・電子工学/情報工学 など(47.5%)」「経理・簿記/旅行・観光・ホテル/会計/経営/医療秘書/流通ビジネス/OAビジネス/福祉ビジネス など(40.5%)」「デザイン/インテリアデザイン/音楽/外国語/演劇・映画/写真/通訳・ガイド/公務員/社会体育/トリマー/放送芸術 など(30.2%)」が希望として多い傾向にある。性別でみると、「情報処理/マルチメディア/自動車整備/土木/建築/電気・電子工学/情報工学 など」は男性59.9%、女性34.2%と25ポイント以上の差が開いた。また「保育/幼児教育/社会福祉/医療福祉/介護福祉/老人福祉/精神保健福祉 など」は女性の方が17.5ポイント高い回答率となっており、男女での傾向の差がみられる。

◇将来働きたい分野はどれですか(複数回答可/当てはまるもの全て)

回答数：550件



		情報処理/マルチメディア/自動車整備/土木/建築/電気・電子工学/情報工学 など	経理・簿記/旅行・観光・ホテル/会計/経営/医療秘書/流通ビジネス/OAビジネス/福祉ビジネス など	デザイン/インテリアデザイン/音楽/外国語/演劇・映画/写真/通訳・ガイド/公務員/社会体育/トリマー/放送芸術 など	ファッションデザイン/アパレル/ファッションビジネス/パレルマリー/チャンティング/和洋裁/編物・手芸/スタイリスト など	看護/歯科衛生/歯科技工/臨床検査/診療放射線/理学療法/作業療法/言語聴覚療法/はり・きゅう・あんま/マッサージ指圧/柔道整復 など	栄養/調理師/製菓/製パン/美容/美容/エステ/メイク など	保育/幼児教育/社会福祉/医療福祉/介護福祉/老人福祉/精神保健福祉 など	農業/園芸/畜産/造園/バイオテクノロジー/フラワービジネス/生命工学技術/動物管理 など	その他	
総計		(n=550)	47.5%	40.5%	30.2%	26.9%	24.5%	23.6%	17.3%	14.9%	6.0%
在籍学校別	大学	(n=23)	43.5%	34.8%	21.7%	30.4%	34.8%	30.4%	21.7%	17.4%	0.0%
	短期大学	(n=154)	33.1%	35.7%	23.4%	24.7%	26.6%	15.6%	16.2%	12.3%	8.4%
	高等学校	(n=313)	52.1%	42.2%	34.8%	27.5%	20.1%	24.6%	15.0%	16.0%	6.4%
	日本語学校	(n=60)	61.7%	46.7%	26.7%	28.3%	38.3%	36.7%	30.0%	15.0%	0.0%
性別	男性	(n=284)	59.9%	39.4%	28.9%	22.5%	24.6%	19.7%	8.8%	13.0%	7.0%
	女性	(n=266)	34.2%	41.7%	31.6%	31.6%	24.4%	27.8%	26.3%	16.9%	4.9%

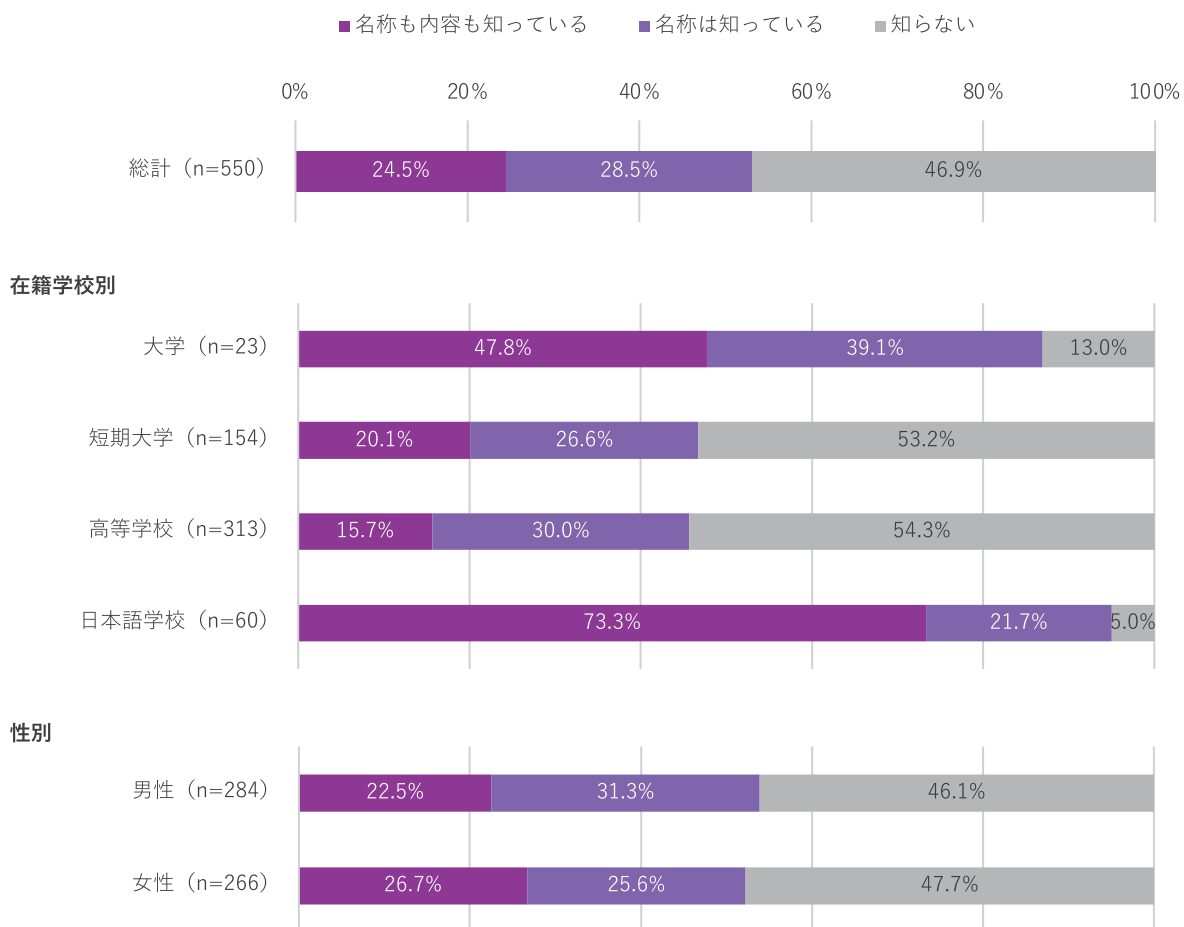
3-3 専門学校認知度

日本の「専門学校(professional training college)」の認知度(「名称も内容も知っている(24.5%)」と「名称は知っている(28.5%)」の合算)は、合わせて53.1%であり、「知らない」と回答した人は46.9%という結果になった。前回調査よりも認知度が下がった結果となったが、大学生の回答割合が下がった結果と推測される。

在籍学校別の認知度(「名称は知っている」「名称も内容も知っている」の合算)は、日本語学校が最も高く95.0%、次いで大学が87.0%となっている。一方で短期大学と高校では半数弱の認知度となった。別途大専各として取り組んでいるオンライン出前授業などの現地教育機関へのアプローチなど、面として取り組んでいくことが今後の課題といえる。

◇日本の「専門学校(professional training college)」を知っていますか? (単一選択)

回答数：550件



4-1 日本の学校に期待する情報やサポート

◇日本の学校に期待する情報やサポートなどを、自由に書いてください。
(自由記述)

回答数：18件

- ・ベトナムで勉強している学生に対して日本の業界・仕事の紹介のプログラムを実施してほしい
- ・日本語の勉強のために日本の学校の資料や素材を利用したい
- ・両国の文化交流のプログラムにもっと多く作ってほしい
- ・専門学校で勉強するための奨学金を知りたい
- ・日本語の無料コースに参加したい
- ・日本の各業界の紹介ビデオを見たい
- ・日本の働き方や5S活動について勉強したい
- ・日本の学校の先生や在學生に会って色々な話をききたい
- ・日本の留学や就職イベントに参加したい
- ・留学できるようにできれば学費が安くしてほしい
- ・留学生のための課外活動が増やしてほしい
- ・各国の文化交流会にたくさん参加したい
- ・先進的な施設で学びたい
- ・外国人留學生が日本人學生と一緒に勉強できるため授業内容を工夫してほしい
- ・日本人の友達をたくさんつくりたい
- ・学校の色々なサークルに参加したい
- ・綺麗な寮で住みたい
- ・日本の学校を卒業してから、ベトナムの日経企業で働く機会がほしい
- ・卒業前に日本でインターンに行きたいため、もっとインターンシッププログラムを知りたい

令和5年度文部科学省委託事業
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」

留学生に関する実態把握アンケート調査報告書
[海外教育機関在籍学生対象]

発行日 2024年1月 第1版

受託 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

編集 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
(データ集計・分析 株式会社アクセスネクステージ)

住所 〒534-0026 大阪府大阪市都島区網島町6-20 大阪私学会館1F

TEL 06-6352-0048 FAX 06-6352-7553

大専各サイト <https://daisenkaku.or.jp/>

OSAKA留学生情報サイト <https://study-osaka.com/>